**水田におけるコモリグモ科2種の個体数の地理的傾向**

◯田中幸一・馬場友希・楠本良延 (農業環境技術研究所)

水田においてクモ類は、イネ害虫の天敵として知られ、農業環境指標としても有効である。一方、水田内のクモ群集は、農法とともに気候や景観などの環境の影響を受け、両者の交互作用の結果、農法がクモ類に及ぼす影響の大きさは環境によって異なる可能性がある。これらのことを解明するため、水田に生息する主要なグループを対象として、調査・解析を進めている。これまでの大会で、コモリグモ科では、キクヅキコモリグモとキバラコモリグモが優占するが、緯度が高いほど、また年平均気温が低いほどキバラコモリグモの割合が顕著に高くなることを報告した。一方、2種は県別にみると全国に分布することから、この地理的傾向は単純に気候だけでは説明できず、種間相互作用が関係する可能性を示唆した。栃木県で行った調査では、2種の比率が地域によって異なったので、このデータを用いて、キバラコモリグモの個体数に及ぼす緯度、景観、他種個体数の影響を解析した結果、キクヅキコモリグモの個体数が負の影響を及ぼすことが明らかになった。この結果から、2種間には何らかの種間相互作用があると考えられる。